

《担当者名》沖野久美子

【概要】

画像検査学で学習した知識や技術をもとに、得られた画像や計測値をその場で判断し、それに対応する解析能力を身につける。超音波検査は、検査結果が術者の技量や知識に影響を受けやすいことや、使用する装置の条件に依存する。技量は正確な画像や数値を得ることであり、得られた情報から疾患等を推察することから、技術習得や知識の一定な水準を確保する必要がある。研究テーマを決め超音波を用いた診断や、検査方法、超音波の原理について研究していくとともに、本講義では1)装置設定、2)超音波装置の基礎、3)アーチファクト、4)心臓超音波検査、5)腹部超音波検査、6)乳腺超音波検査、7)甲状腺超音波検査、8)下肢静脈超音波検査、9)下肢動脈超音波検査、10)頸動脈超音波検査について臨床現場に出た際の即戦力を養う。

【学修目標】

- 1) 超音波を用いた医療についての知識と技術を身に付け、自ら研究・発表を行うとともに超音波検査について適切な発言ができる。
- 2) 超音波の基本的特性と超音波機器の原理について理解する。
- 3) 臨床情報をもとに適応を判断して、超音波検査を含めた適切な診療計画が立案できる。
- 4) 超音波検査結果を正しく評価して適切な報告が行える。
- 5) 各領域の超音波検査における基本事項と正常および病的状態の超音波所見を理解し、説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	画像検査学総論	<ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査の注意点 ・超音波検査の操作方法 キーワード：装置設定、画像調整、プローブ、接遇	沖野久美子
2	超音波検査の基礎1	<ul style="list-style-type: none"> ・超音波の原理 ・超音波の性質（周波数・指向性・分解能・減衰） 	沖野久美子
3	超音波検査の基礎2	<ul style="list-style-type: none"> ・アーチファクト 	沖野久美子
4	循環器領域(心臓)の構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓の解剖、形状、生理 ・心臓の基本的走査法 	沖野久美子
5	循環器領域(心臓)の基本超音波画像	<ul style="list-style-type: none"> ・基本断面の描出 ・各モードの理解 ・ドブラ法の記録 ・計測法 	沖野久美子
6	循環器領域(心臓)の異常所見	<ul style="list-style-type: none"> ・弁膜疾患 ・虚血性疾患 ・心筋疾患 ・先天性疾患 	沖野久美子
7	腹部領域(肝・胆・膵・腎・脾)の構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・腹部領域の解剖、形状、生理 ・腹部領域の基本的走査法 	沖野久美子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
8	腹部領域(肝・胆・膵・腎・脾)の基本超音波画像	<ul style="list-style-type: none"> 基本断面の描出 腹部領域のドプラ法の記録 	沖野久美子
9	腹部領域(肝・胆・膵・腎・脾)の異常所見	<ul style="list-style-type: none"> 腹部領域の代表的疾患 	沖野久美子
10	体表超音波検査(乳腺)	<ul style="list-style-type: none"> 乳腺の基本走査法 乳腺の正常像、異常像 	沖野久美子
11	体表超音波検査(甲状腺)	<ul style="list-style-type: none"> 甲状腺の基本走査法 甲状腺の正常像、異常像 	沖野久美子
12	血管超音波検査(下肢静脈)	<ul style="list-style-type: none"> 下肢静脈の基本走査法 下肢静脈の正常像、異常像 	沖野久美子
13	血管超音波検査(下肢動脈)	<ul style="list-style-type: none"> 下肢静脈の基本走査法 下肢静脈の正常像、異常像 	沖野久美子
14	血管超音波検査(頸動脈)	<ul style="list-style-type: none"> 頸動脈の基本走査法 頸動脈の正常像、異常像 	沖野久美子
15	造影超音波検査	<ul style="list-style-type: none"> 造影超音波検査総論 造影超音波検査の流れ 	沖野久美子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート100%

【備考】

適時、講義資料を配布する。

Google Formを利用して学習課題を提示

【学修の準備】

図書館などで該当する項目を予習し、専門用語の意味などを理解する(80分)

講義で用いた資料に関して復習し、要点をまとめる(80分)

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

【実務経験】

沖野久美子（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、高度に専門化し複雑化した医療の分野にあたり、専門職業人としての理念と方法、その具体的な実践に関して講義する。